

あなたへの「聖書メッセージ」 【左手は私 右手は神さま】

● マタイの福音書 11章28～30節

石川啄木が作った短歌に、次のようなものがあります。

「はたらけど はたらけど猶（なお） わが生活（くらし）
楽にならざり ぢっと手を見る」

啄木は、自分の生活の象徴として、ぢっと手を見つめています。

開いた手でしょうか。にぎりしめた手でしょうか。生活のために精一杯、働きに働いてきた手ということですから、開いている手というよりは、にぎりしめている手のような気がします。

私たちも今回、左手を「私」という存在の象徴として、ぢっと見つめ、考えてみることにいたします。

啄木自身は、神を信じることは出来ず、魂の平安がないまま、数え年27歳で、困窮のうちに、さびしく命を終えていきましたが、妹の光子さんは、神を信じ、救いを体験しているクリスチャンでした。

啄木は、妹について、次のような短歌を残しています。

「キリストを 人なりといへば 妹の
眼（め）がかなしくも われをあはれむ」

彼女が信じ、彼女に救いを与えて下さった、主なる神、主イエス・キリストを「右手」と考えて、ぢっと見つめ、考えてみることにしましょう。

左手は私、右手は神さま、イエス・キリスト。



左手の私をもう少し、見つめることにしましょう。

私という存在をこの左手で表現するとしたら、開いている状態でしょうか？ にぎりしめている手でしょうか？

毎日の私たちの生活は、力をぬいて開いているというよりは、閉じている・にぎりしめているという状態ではないでしょうか。

どのように、にぎりしめているのでしょうか。

こぶしの中に空洞がないほどに、すきまがないほどに、がんばっている状態でしょうか。

力が入っています。精一杯やっています。力をぬくことができません。世の中は、あまくありません。つかれるほど、追いたてられるようにして、はたらいています。

すきまがないほどに力を入れてにぎりしめていますと、気がぬけません。つかれてしまいます。

こんな状態は、ずっと続けていけるわけではありませんから、力をゆるめます。少し楽になります。でも、これがあたり前の姿です。

こぶしの中に、[空洞](#)ができます。空洞のない状態というのは、ムリをしているのです。

主なる神が私たちを創造し、私たちに生命を与えられた時、そのように造られたのです。

フランスの物理学者であり、哲学者でもある[パスカル](#)という人は、次のように言いました。

「すべての人の心の中には、神によって造られた空洞があり、それは、神のみが、御子イエス・キリストによって満たすことのできるものである。」

今の言葉の後半の部分は、後ほど考えることにしましょう。

前半の部分「すべての人の心の中には、[神によって造られた空洞](#)がある。」

「空洞」があるのが人間、本来の姿です。そして、この空洞をなんとかして満たそうとして、人は多くのことをします。時間を使い、お金を使い、体を使います。

スポーツをします。あるいは、スポーツを観戦し、応援し、一喜一憂します。音楽会に行きます。映画やテレビを見ます。芝居に行きます。読書をします。旅行に出かけます。おいしい物を食べに行きます。なんとかして、この空洞を満たそうとしています。

今、これを読んでくださっている皆さんは、心の空洞を、ちがった満たし方をされていますが、今のこの時間も、多くの人たちが、さまざまな方法で、心の空洞を満たそうとしておられるのです。

確かに、しばらくの間は、空洞を満たすことができます。でも、おいしい物を食べても、又別のおいしい物が必要になってきます。海外旅行で、すばらしい経験をしてきた人も、又、次の計画を立てていくことになります。

いつまでも続く心の空洞の満たし方ではないのです。一時的に空洞を満たしても、やがて消えていき、又満たしていかななくてはならないのです。

しかも、空洞を満たすために、多くの時間をとっているわけにはいきません。私たちは、生きていくための糧（かて）を得るために、汗を流して働かなくてはならないのです。働くための時間の方が、はるかに長いのです。

そして、その生活の中で、**多くの重荷**を負っていくことになります。

仕事の重荷、子育ての重荷、家族関係の重荷、隣人関係の重荷、職場の人間関係の重荷、不一致、冷たい対応、いじめ、反抗、うわさや悪口・・・・・・ それらの物がどっしりと、私の上にとっかっています。



生きていくのもつらい、死んでしまいたいと思うほどのこともあるでしょう。

自分ではどうしようもないほどに、疲れている人がいるのではないのでしょうか。

自分でどうかできるのなら、自分でこの重荷を取り除けばいいのです。しかし、自分でどうにかできるものなら、もともと、重荷とはなりません。

なんとかして、この重荷を取り除こうとして、人にも相談したり、助けもしてもらいながら、がんばってみるのですが、どうにもできないのです。

私の上に、どっかりとのっかって、しっかり私をとらえて、重荷は、私をはなれてくれようとはしません。

重荷を背負いながら、私たちは、人生の坂道を歩んでいっているのです。

私たちは、疲れています。

しかも、**私の上にとっかっているのは、重荷**でしょうか。

重荷だけでは、ないのです。

● 〈聖歌〉の425番

「**つみ・重荷**を除くは、血の力。主の血は、悪魔のわざをこぼつ、くしき力なり。」

「**つみ・重荷**を除くは」とあります。

重荷だけではなくて、**罪**が、どっかりとのっかっているのです。

すべての人は、神の前に罪を犯しました。今も、罪を犯しつづけています。神が忌みきらわれること・悲しまれることを、くり返し、しつづけています。

不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、ねたみ、酒にようこと、さわぎまわること、姦淫、不倫、盗み、どん欲、そしり、略奪、不義、悪事、むさぼり、悪意、殺意、欺き、悪だくみ、陰口、神を憎むこと、人を人と思わぬこと、高ぶり、大きなことを言うこと、親に逆らうこと、わきまえないこと、約束を破ること、情け知らず、慈愛のないこと、舌の罪、男女関係の罪、金銭関係の罪

きよいお方である神の前で、罪がない人・きよい神の前で、ただしい人・義人といわれる人はいません。ひとりも、いません。

この世に神から生命を与えられ、生を受けてから、今に至るまで、あの罪、この罪、そしてあの罪も、この罪も、かぞえきれないほどの罪が、私の上にのっかっているのです。

私が犯した罪は、私には、どうすることも出来ません。

ふり払おうとしても、ふり払うことは出来ません。

こんなことは罪ではない。だれもがやっていることだ。これが人間というものだよ。——とわり切ろうとされますか？

何とか自分で自分をそう思いこませてみても、神は、被造物である私たちに、**良心**というものを与えておられますから、平安がないのです。

修行をしますか。修行をすれば、これから犯す罪は、少しは減らすことができるかもしれません。しかし、神の前に、**これまで犯した罪**、そして、**これから犯す罪**については、どうすることも出来ないのです。

罪を犯した者は、それをなかったかのように、取り消すことはできません。どんな修行をしても、どんな償いをして、**罪の事実を消すことはできない**のです。

私たちはよく、苦しいめに会った時、「神も仏もあるものか！」といいます。自分が原因を作り、神など信じていないくせに、「もし神がいるなら、なんでこんな苦しい、辛いことが起こるのか。」といいます。

確かに神はおられるのですが、私たちには見えないのです。

罪・重荷が私をおおってしまっていて、見えないのです。

この**罪・重荷**がなくなれば、神は見えるのですが、**罪・重荷**が、私をおおってしまっているために、神が見えないのです。

主の御手が短くて、救えないものではありません。主の耳が遠くて、私たちの叫びやうめきが聞こえないではありません。

私たちの咎（とが）が、**罪**が、私たちと、私たちの神との仕切りとなり、私たちの**罪**が御顔（みかお）を隠させ、聞いてくださらないようにしているのです。

罪が、私たちと神との間を引きはなしているのです。

こんなことを続けていて、一体、私たちはどうなるのでしょうか。

罪から来る報酬は、**死**です。**永遠の滅び**の刑罰を受けるのです。

この**罪**を持ったまま、もし私たちが死んで、神に裁かれるなら、天国に行く資格のある人は一人もいません。みな**永遠の滅び・地獄**に行かなければならない、と**聖書**は警告しています。

私は、ほんとうに、みじめな人間です。だれがこの**死**のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

自分ではどうすることも出来ないのです。この背負っている**罪**を、一体どうすればいいのでしょうか。どうしても、取り去ることは出来ないのでしょうか。

私は、このまま、さばかれ、刑罰を受け、**永遠の滅び**の中に投げ入れられていくのでしょうか。

よーく、心の耳をすましてみて下さい。何か、音が聞こえますか。心の戸の外に立って、たたいている方がいるようです。

トン、トン トン、トン トン、トン トン、トン トン、トン

かすかな、細い声が、戸の外から聞こえてきます。

その声をしっかり、耳をそばだてて、聞いてみてください。

このように言っておられるようです。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたいています。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、あなたのところに入って、あなたとともに食事をし、あなたもわたしとともに食事をします。」

一体、だれの声なのでしょう。

そのお方は、次のようにも言っておられます。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを、休ませてあげます。

わたしは心やさしく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎが来ます。」

うーん。どこかで聞いたことばだぞ。たしか、聖書とかいう本に書いてあると聞いたことのある言葉ではなかったかな。

としたら、イエス・キリストとかいう人の声なのだろうか。

「もしかして、あなたは、イエス・キリストですか？」

そうです。イエス・キリストです。

「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。

「あなたは、潤された園のようになり、水のかれない源のようになります。

「わたしが、疲れたたましいを潤し、すべてのしぼんだたましいを満たすからです。

魂の問題は、人がアレコレやって解決できるものではありません。

神が生命の息を吹きこまれた魂の問題は、神の領域に属することですから、神によってしか解決は得られないのです。

イエスさま。私の上には、身動きできないほどの、罪・重荷がのっかっています。自分では、どうすることもできません。背負い切れません。もう疲れしました。倒れそうです。

あなたは、どのようにしてくださるのでしょうか。

イエス・キリストは、答えられます。

「わたしは、あなたが背負いつづけたい、自分のことは自分でやっていく、ほっといてくれ！——というのを、ムリやりにどうこうしようとは思いません。しかし、あなたには、その**罪や重荷**はどうすることもできません。

あなたに、どうにかすることができるなら、したらいいでしょう。しかし、あなたにはできないことなのです。

その罪や重荷を、自分でなんとかしようとしなくて、わたしの上に全部、のこらず、まかせてしまいなさい。わたしが、背負ってあげましょう。そして、わたしがあなたにかかわって罪のさばきを受け、その罪に解決を与えてあげましょう。」

神は、実に、そのひとり子、イエス・キリストをお与えになったほどに、世を愛されました。それは、御子イエス・キリストを信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。

主なる神は、このような罪を憎まれますが、罪びとである私を、**愛してくださっている**のです。



こちらの手・右手は、神が人となって来られたイエス・キリストです。キリストは、罪のまったくないお方です。

キリストは、十字架で死なれた時、私たちが本当は受けなければならなかった罪の責任・罰を、このように、よく写真を見てくださいね。ご自分の身に全部引き受け、肩代わりしてくださったのです。



そして、死んで陰府（よみ）にくんだり、三日目に死からよみがえり、私の罪の罰を、完全に支払い済みにして下さり、そして、永遠のいのちをプレゼントとして、与えてくださったのです。

ごらんになってください。私の上にあった、あれほどの罪も重荷も、何にもなくなってしまうました。

又、罪をおかすかもしれない、又重荷がのっかってくるかもしれない、と言われるすか。

大丈夫です。又その時は、「イエスさま、お願いします。」といって、イエスさまにおまかせしてしまつたら、いいのです。

私の上には、もはや、今までのような罪も重荷も、なくなつてしまいました。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしが、あなたがたを休ませてあげます。わたしは心やさしく、へりくだっているから、あなたがたも、わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎが来ます。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

「わたしの荷は軽いからです。」と言つておられます。

不必要な重荷はなくなりましたが、荷物が何にもなくなるとは、イエス・キリストは言つておられません。「わたしの荷は軽いのです。」

新しい荷、新たな使命が与えられて、励んでいくのです。

私たちは、自分の罪をどうすることもできませんでした。まして、聖いお方である神の前にただしい、即ち、義であるなどということは、ありえないことでした。

しかし、イエス・キリストを信じる信仰によって、イエス・キリストの上に罪をおまかせすることによって、神の前に義と認められる——ということを知つたのです。

私の行ないによってではなく、キリストを信じる信仰によって、義と認められるのです。

私たちは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。プレゼントです。

行ないによるものではありません。だれも、誇ることのないためです。

神は、罪を知らないお方、イエス・キリストを私の代わりに、罪とされました。それは、私が、この方にあつて、神の義となるためです。

すべての人は、罪を犯したので、神からの榮譽を受けることができず、ただ神の恵みにより、

キリスト・イエスによる贖い（あがない）のゆえに、価（あたい）なしに義と認められるのです。

神の前に、罪がまったくない者として認められるのです。

そして、そればかりではありません。その結果、「神の子ども」とされる特権と、もう一つ「永遠のいのち」を与えて下さって、天国に招き入れてくださるというのです。

「この方、イエス・キリストを受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになりました。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのです。」

「神は、実に、そのひとり子、イエス・キリストをお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子イエス・キリストを信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつためである。」

イエス・キリストは言われます。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は、永遠のいのちを持ちます。」

そして、私の努力に対する報いとしてではなく、神の恵みによって、プレゼントとして、私を天の御国（みくに）・天国に入れていただくのです。もはや、死に対してさえも、恐れることはないのです。

あなたは、神を見られたことがありますか。

私たちは、背負っていた罪や重荷のために、それが仕切りとなって、聖いお方である神を見ることができませんでした。

でも今では、私の上には罪も重荷もありません。新しい罪や重荷も、すぐイエスさまにゆだねてしまいます。ですから、私の上には、さえぎるものはありません。

聖書に、「心のきよい者は幸いです。その人は、神を見るからです。」とあります。

神を信じ、キリストを信じている、クリスチャンと言われる人に、「神は、いますか?」「天国は、あるのですか?」と質問してみてください。

「うーん。あると思う人にはあるし、ないと思う人にはないんじゃないですか。」

——などというような、あいまいなことを言う人はいないでしょう。彼らには、**神が見え、天国が見えている**のです。

「神の前に、聖められることを追い求めなさい。きよくなければ、だれも、神を見ることができません。」

いかがでしょうか。以上のことに感謝し、**神の愛のプレゼント**を、お受け取りになりませんか。

3つのことを、神に申し上げるだけでいいのです。

1つは、「神さま、私は罪をおかしました。**罪人（つみびと）です。**」ということです。

2つめは、「罪のないイエスさまが、十字架で、私の罪を償って（つぐなって）くださったと聞きました。又、死からよみがえり、永遠のいのちをプレゼントして下さることを聞きました。ありがとうございます。**感謝します。**」ということです。

3つめは、「今、私はイエスさまを、私の罪からの救い主・永遠のいのちの恩人として信じ、お受け入れます。こんな私ですが、よろしくお願いします。**信じます。**」ということです。

この3つのことを、神の前に、心開いてお祈りするのです。

ごいっしょに、お祈りいたしましょう。心の中ででも、できれば声に出して、祈ってみて下さい。すばらしい、神さまからのプレゼントを、いただくことができます。

「**天の神さま。**私は、罪をおかしました。こんな私が、さばかれてあたりまえなのに、罪のないイエスさまが、十字架で私の罪を、つぐなって下さったと聞きました。

又、死からよみがえり、永遠のいのちをプレゼントして下さることを、ありがとうございます。

今、私は、イエスさまを、私の罪からの救い主・永遠のいのちの恩人として、信じお受け入れます。こんな私ですが、どうぞよろしくお願いします。アーメン」

「はたらけど はたらけど猶 わが生活（くらし） 楽にならざり ぢっと手を見る」

「キリストを 人なりといへば 妹の 眼がかなしくも われをあはれむ」

これからは、**左手**を見る時は、**私**なんだ。 **右手**を見る時は、**主なる神、主イエス・キリスト**なんだと思って、ごらんになってみてください。

私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ、神に感謝します。

